

君とつばさ



平成26年7月15日
 発行・公益財団法人 交通遺児育英会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1
 (電話) 03(3556)0771
 (HP) http://www.kotsuji.com

©交通遺児育英会



海外語学研修でアメリカに出発する高奨生への説明会が6月末、研修生24人と保護者が出席して都内で開かれた。土肥寿員常務理事が、

語学研修生、来週米国へ

説明会 ホームステイに思いはせ

研修で英語力を磨き、異文化に触れる大きなチャンスを生かして欲しい」と、参加者を激励。次いで担当者、①渡航中、日本の保護者と連絡し合

わなないの小遣いは少なめにーなどと、研修の趣旨に沿った心構えを持つよう求めた。昨年の研修を体験した先輩学生2人が質疑応答

新奨学生332人採用

奨学生数の推移

単位:人、()内は各年度新奨学生数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
高校・高専	548 (172)	523 (135)	487 (115)	446 (133)	424 (106)
大学・短大	667 (163)	711 (188)	715 (162)	677 (144)	659 (154)
専修・各種	185 (79)	199 (72)	185 (66)	182 (77)	173 (62)
大学院	26 (7)	29 (10)	26 (8)	28 (12)	26 (10)
計	1,426 (421)	1,462 (405)	1,413 (351)	1,333 (366)	1,282 (332)

この結果、2年生以上の継続採用者を含めた奨学生の総数は、高校407人、高専・専攻科17人、大学613人、大学院26人、専修学校169人、各種学校4人の計1282人で、前年同期に比べ

今年度、新たに奨学生に採用されたのは、高校105人、高専1人、大学136人、短大18人、専修学校61人、各種学校1人、大学院10人。前年同期に比べ、高校・高専が27人減、大学・短大が10人増、専修・各種が15人減、大学院が2人減となっている。

総数1282人に 26年度

交通遺児育英会は、奨学生予約者の中で今春進学した332人を正式に採用し、6月2日、本人と進学先の学校へ通知した。

交通遺児育英会は、奨学生予約者の中で今春進学した332人を正式に採用し、6月2日、本人と進学先の学校へ通知した。

交通遺児育英会は、奨学生予約者の中で今春進学した332人を正式に採用し、6月2日、本人と進学先の学校へ通知した。

現役就活生を励ます先輩座談会(6月、都内で)



4人の先輩は、就活では「自分の資質を見つめて、企業に情熱を売り込む」姿勢が大切と語り、就活進行形の奨学生に、「自信を持つて」自分をアピールするよう、励ましのメッセージを贈った。(座談会特集2面、関連記事3面に)

就活生を応援 先輩が座談会

来春の卒業生たちの就職活動が、いまピークを迎えている。交通遺児育英会は6月、就活を成功させて社会人として働く先輩に集まってもらい、奨学生を励ます「就活生応援 OB・OG座談会—いま社会人として—」を行った。

25年度事業・決算報告を承認

交通遺児育英会は6月4日、第10回通常理事会を開き、平成25年度事業報告と決算報告を承認した。

他方、事故負傷者数、重度後遺障害者数は高水準が続いており、遺児対策を検討している。

【事業報告】

1. 奨学生の採用
 25年度の新規採用は、高校180人、大学190人、大学院16人、専修学校91人、各種学校3人の計480人で、前年度比5人増となった。
 奨学金、一時金、準備金の貸与総額は9億6600万円で、同6600万円減だった。

2. 奨学金の返還
 返還金の総額は10億6000万円、返還率89%で、前年度を3ポイント上回った。

3. 奨学生への指導
 高校奨学生と保護者の「つどい」に66家族130人が参加、家族、参加者数とも前年度からほぼ倍増した。

4. 学生寮の維持管理
 東京寮では、塾生のための記事掲載働きかけ、交通安全運動に協賛するなど、事業PR活動を行った。

5. 資金造成活動
 過去の寄付実績のある法人・団体への復活の働きかけを強めたほか、個人寄付者の拡大のため、募金型自動販売機の設置を促進した。

6. 知名度向上活動
 広報紙とホームページを改善したほか、業界紙への記事掲載働きかけ、交通安全運動に協賛するなど、事業PR活動を行った。

奨学生募集中

上回った。返還が1年を超えて滞っている滞納者は、25年度末で2850人で、前年度を600人以上減少した。過去5年間で最少となる滞納は、戸別訪問や督促などにより、380件を解消させた。

7. 読書感想文、スピーチ講座を各4回行った。関西寮でも、読書感想文講座4回のほか、就職活動セミナーを行った。

8. 資金造成活動
 多額の遺贈によって寄付金総額は3億6000万円となった。

過去に寄付実績のある法人・団体への復活の働きかけを強めたほか、個人寄付者の拡大のため、募金型自動販売機の設置を促進した。

6. 知名度向上活動
 広報紙とホームページを改善したほか、業界紙への記事掲載働きかけ、交通安全運動に協賛するなど、事業PR活動を行った。

5. 資金造成活動
 過去の寄付実績のある法人・団体への復活の働きかけを強めたほか、個人寄付者の拡大のため、募金型自動販売機の設置を促進した。

4. 学生寮の維持管理
 東京寮では、塾生のための記事掲載働きかけ、交通安全運動に協賛するなど、事業PR活動を行った。

3. 奨学生への指導
 高校奨学生と保護者の「つどい」に66家族130人が参加、家族、参加者数とも前年度からほぼ倍増した。

2. 奨学金の返還
 返還金の総額は10億6000万円、返還率89%で、前年度を3ポイント上回った。

1. 奨学生の採用
 25年度の新規採用は、高校180人、大学190人、大学院16人、専修学校91人、各種学校3人の計480人で、前年度比5人増となった。

【事業報告】

奨学生の採用

奨学金の返還

奨学生への指導

学生寮の維持管理

資金造成活動

知名度向上活動

読書感想文、スピーチ講座

関西寮での読書感想文講座

就職活動セミナー

寄付金総額の増加

交通安全運動

事業PR活動

個人寄付者の拡大

募金型自動販売機

就業率向上

就職活動

奨学生への指導

奨学生と保護者のつどい

奨学生への指導

就活生応援 O.B.・O.G.座談会

自己見詰め情熱前面に

後輩就活生を励ます「就活生応援 O.B.・O.G.座談会」に出席した4人の先輩は、それぞれの就活体験を振り返り、その苦労と工夫や現在の仕事の喜びなどを語り合った。

(文中敬称略)

—皆さんは、どんな仕事をされていますか。

石井 テレビの一部を作る装置を作っています。

岸本 放送局リポーターです。取材して、原稿を書いて、しゃべって。収穫物とか展示会、イベント、町おこしのスイーツ作りなど、明るく楽しいネタを求めて県内を駆け巡っています。

大庭 臨床検査技師として働いています。人間ドックで、心電図、肺機能、聴力など普通の健診で、血液を扱ったり、尿やエコー検査、乳がん検診など、いろんな検査をします。

小松 私は、第一志望ではない大学に受かってしまったので、就職だけは第一志望に入りたいと思って、合コンも行かずサークルにも入らず、自分の資質がわからない図書館にこもって夜9時まで、(仕事を)選ぶのも

- 出席者**
- 石井亮介さん(29) キヤノン光学機器事業本部勤務(宇都宮市)
 - 岸本南奈さん(26) NHK徳島放送局リポーター(徳島市)
 - 小松容子さん(26) 富士メガネ5588琴似店勤務(札幌市)
 - 大庭歩美さん(22) 京都工場保健会臨床検査技師(京都市)
- 司会 佐藤一成・交通遺児育英会奨学課長

石井 寮体験、武器になる

岸本 遠回りも一つの道

小松 人脈フルに使って

大庭 面接官に逆に質問

たかもしれない(笑)。趣味は、医療系の仕事。交通事故で入院したとき、看護師さんの温かみを感じて、医療職に憧れました。

石井 僕は、自分のデ



石井さん (心塾東京寮出身)

皆さん感じると思うんですけど、採血のとき上手な看護師さんにしてもらいたいという気持ちがあるから、針を刺してから抜くまでの技術を磨くことは努力しました。

岸本 私は話をするの



岸本さん (心塾関西寮出身)

小松 うちの会社は、ちょっと販売価格が高めなんです。検査やフィッティングの質でしっかりした眼鏡を提供するという方針なので、それに合う技術の習得が追いついていないのが課題です。

岸本 人とのつながりから一次情報を得て、どこにも紹介されてない話を引き出したときが一番の快感です。見たままをすぐに伝える即時描写は難しいですね。鳴門海峡の渦潮リポートで、いい感じの渦が巻いているときにうまくコメントできずに話まっただか。

小松 私は周囲の人に自分がいいところを教えたら、ちょっとずつ自信をつけて、履歴書も大学の先生の力を借りました。それも人脈があったことだから。使えるものは全部使って、早めに準備を始めた方がいいと思います。

大庭 どれだけ勉強しても国家試験に通らなかつたら何もできないし、留年して諦めたら無駄じゃないですか。だから、勉強は諦めないでがんばって、と言いたいです。

石井 会社と学生は対等だと思えます。その会社で働くから、報酬としてお金をもらうということ、対等なんだというのを前提にして、学生時代に経験した遊びでも勉強でも何でも、その情熱を売っていかなくていいと思います。

また就活したいです。だって、自分に向き合ってる。本当の自分って何だろうって自問する唯一の機会じゃないですか。

—皆さんも、自分を見つめましたか。

岸本 見つめました。小松 見たくないところを、いっぱい見ました(笑)。

動機

—皆さん、それぞれの仕事にすんなりたどりつきましたか。

岸本 私は、高校を出てからの6年間に、学校を三つ、就職を一つ経験しました。キャンピングカー(CA)の専門学校に通いながら短大の通信講座も受けて、結局CAが向いてないと思っ



小松さん (海外語学研修生)



大庭さん (海外語学研修生)

旅行会社の添乗員になりました。添乗員としてお客さんに説明したりするうち、話すことがうまくなりたくて、アナウ

大庭 私は、育英会の語学研修でカナダへ行ったんですが、英語の道に進みたいという強い意思がありました。でも、母が行こうと思いません。岸本 正しい判断だっ

難しいですよ。大庭 私は、育英会の語学研修でカナダへ行っ

大庭 私は、育英会の語学研修でカナダへ行っ

大庭 私は、育英会の語学研修でカナダへ行っ

高望みで進学したんです。ういえばこれでいい話。楽しんだ。

石井 苦労をかけた話なら朝まででもできるんですけど(笑)。苦労と

大庭 勉強で一番苦労したのは、技術面です。

やり切りましたと言った。面接官の心はつかめました。学生寮で毎月のようにイベントがあり、

石井 8社受験しました。面接で、学生時代に飾らないで、言われた人に対して、真摯な姿勢を見せるといいのかなと思えました。

岸本 度胸ありますね。小松 ちょっと狙って

大庭 面接で逆に質問しました。どうして自分スタッフになったのかわかりましたか。

大庭 私は、面接で逆に質問しました。どうして自分スタッフになったのかわかりましたか。

大庭 私は、面接で逆に質問しました。どうして自分スタッフになったのかわかりましたか。

自問

—就活中の奨学生へ応援メッセージを。

岸本 アナウンススタイルの先生から、「狭き

迎えてくれる人がいる

心塾新入生 入寮3か月

交通遺児育英会の心塾にこの春入寮した大学、専門学校の新入生は、東京、関西の計32人。実家を離れて3か月、帰宅して「迎えてくれる人がいる」寮の体験記を9名に寄せもらった。

東京寮



浅野里緒菜

すばらしい仲間
仲間ってすばらしいと改めて感じた。多くの時間を共有することで、不安も解消されるし、何より、笑顔でいられる。この恵まれた環境にいられることに感謝し、目標を持って仲間とがんばっていききたい。(中央大学)



寺内 遥奈

異見に触発され寮の暮らしにもだいぶ



西 昭太朗

仲間と高め合う

唯一、寮生活で苦勞することは、自己管理である。つい夜遅くまで仲間と話し込んでしまうからだ。それ以外は何の不安もなく、寮生活、学校生活を送れている。



山本まりあ

優しい先輩

優しい先輩たちや友だちのおかげで、すっかり寮生活にも慣れた。日々の生活、さまざまな行事を通して、仲間との触れ合いも多く、とても充実した楽しい生活を送っています。(立教大学)



久力 祐太

仲間からいい刺激

私は、塾生仲間から、日々良い刺激を受けています。多様な学部先輩



佐藤 悠貴

感想文、イベント

朝夕に食事を作ってもらえるので、食事には困らなくていいです。とても満足しています。他の塾生と親睦を深められるイベントもあります。読書感想文の課題があります。が、大学ではやらないし、



佐藤麻衣子

ご飯の時間楽しみ

入寮したとき、ちょうど入れ替え時期で、人が少なかった。食堂で一人で食事することも何度かあり、寂しさも感じた。しかし、徐々に他の人と



吉田 朋美

仲間と格別の時間

学校と寮生活の両立ができるか、入塾当初は不安だった。しかし、寮生みんなの温かい心遣いのおかげで、その不安もなくなった。特に同期の仲間との時間は、地元や大学の友人たちとは違う、



友定 駿平

点呼と門限の寮

私は現在、大学の夜間部に通っています。寮に入る前は、昼夜逆転の生活になってしまっていた。寮生活になってからは、生活リズムも整いました。寮生活は、心配は全く必要ありません。寮では、朝の

私の学び舎 夢の扉

点呼、夜の門限があり、規則正しく健康的な生活を送っています。先輩や同期生も優しい人ばかりで、毎日楽しく過ごせています。(工学院大学)

中3ですすでに大学レベルの英語を履修した自信もあって、進学志望は第一も第二も、外国語大学の英語学科だった。しかし、大阪大学外国語学部の岸本竜一さん(20)がいます。

大阪大学外国語学部

ビルマ語専攻 2年

岸本 竜一 さん



▲外国語のメッカらしくキャンパス中心にある世界時計を背に

「センター試験が難しい年で、スペイン語でも(合格が)難しそうなおかげで、その不安もなくなった。特に同期の仲間との時間は、地元や大学の友人たちとは違う、ビルマ語を受験したら、後期だけ受かった」

ミャンマー人の先生にもらって、と名前「アカシュエ」を使っています。ビルマ語で

四つ目の書棚を買い足しました。整然と並んでいるのを見るのがうれしい。高校に通う妹圭織さん

キムム子鍋*

800冊

3か月が過ぎ、心にも余裕ができた。この余裕をいかに生かせるよう、充実した寮生活に感謝の気持ちを持ちたい。(共立女子大学)



希少言語がぜん発奮

顔を合わせ、あいさつする機会もないので、良い経験になっていいると思えます。大学でも勉強をがんばりたいです。(関西外国語大学)

「飯の時間楽しみ」

入寮したとき、ちょうど入れ替え時期で、人が少なかった。食堂で一人で食事することも何度かあり、寂しさも感じた。しかし、徐々に他の人と

初めて触れたビルマ語

初めて触れたビルマ語

初めて触れたビルマ語

初めて触れたビルマ語

初めて触れたビルマ語

初めて触れたビルマ語

は、思っていたより簡単ですが、おかしは買ってきたり、学食ですませたり。カラオケ店員のアルバイトで、たばこの煙が充満する部屋に入らなければならない。胸を痛めたりして、1週間入院。「母が飛ぶ」を眺めて、悦に入らないうえ、母が飛ぶ。次は、希少言語を引いて、自分が飛んで帰る。

「将来、地元へ帰って地方公務員になる」と思う。730点以上取ると、有利なので」



堀之内 理紗さん (20)

鹿児島医療技術専門学校
作業療法学科 2年

「作業療法士は、どんな仕事をしますか。手がまひしている患者さんが、ご飯を自分で食べる目標を持っているとしたら、自助具を作ったり、手指の機能が元通りにならないまでも、自分で食べられるようにしてあげる。体の機能を回復させる理学療法に対して、日常生活に支障がないように体と心を元気にするのが仕事です」

「なぜその仕事に就こうと思いましたが。中一のとき、母が事故で入院しました。左手が使えない障害で半年入院して、リハビリに取り組んでいたとき、『一生寝たきりなら殺してほしい』とまで作業療法士さんに言ったと、後で聞きました。その作業療法士が、『娘さんもういるのだから』と懸命に励めて、励ましてくれました。動かない腕を動かす姿は、痛そうでショックを受けましたが、そのおかげで、自分で手を動かす

心も元気にするリハビリ



真新しい白衣を着て身も心も引き締まる

て、ものをつかめるほどとくに面白いです。神経に回復しました。作業療法のちよっとした違いで、法士という仕事もいかな全然違う障害になる。神と思えました。入学して 経のシステムって面白い

年生になってからです。作業療法といっても、発達障害、整形、身体障害、精神障害など分野が分かれていて、いまは全部を勉強して、自分に合う分野を探段階です」

「就職は地元を希望して、最近、東京などの病院で働いてみたいと思うようになり、地元だと、温室みたいで少しぬるい感じがします。東京でいろんな刺激を受けて、厳しくもまけてみたいと思って」

「卒業したら、お母さんのリハビリを手助けできますね。」

「はい。母は肩が動かないんですが、触診の知識も未熟でまだ怖くて肩甲骨にさわれません。実習を重ねて、きちんと学んだらサポートします。母も『よかった』と言ってくれています」

初めての一人暮らし。すっかり自炊し、「おはよう、行って来ます、たださい」と、毎日、ラインで知らせるのが、母とまみさんとの約束。体調を崩し、母の世話を受けた後は、「ホームシックになった」が。

「初期はリハビリの勉強だけかと思っていました。でも、そのためには医療や薬の知識や、解剖学、生理学なども知らないといけないとわかり、大変です。神経内科学が



鹿児島医療技術専門学校

から、母を担当した療法士がこの学校の卒業生と知りました」

「後期に見学実習がありますが、本格的には4

小倉順校長。1996年、原田学園グループの医療系専門学校として鹿児島市に開校。2キャンパスに昼夜間5学科がある。作業療法学科(4年制)には、122人が学ぶ。大卒と同等の高度専門士の資格を得られるのが特徴。

インタビュー わが道

「素の自分」現場でたたき上げ

先輩 お元気ですか

国際協力機構 経済基盤開発部主任調査役

岡田 薫 さん



1975年、兵庫県生まれ。同県立篠山鳳鳴高校卒業後、中央大学理工学部在学中に1年間ブラジルでボランティア活動。同大卒業後、2000年、国際協力機構(当時は国際協力事業団)に就職。09~12年の南アフリカ事務所駐在を経て現職。

「日本のほんわかした平和な感じが好き。でも、どこかで刺激が欲しくなる」と、次の海外勤務を思う



「とにかく行く」と、大学を休学してブラジル・サンパウロのファベラ(貧民街)に赴く。日本の途上国援助を担う国際協力機構(JICA)の、経済基盤開発部主任調査役の岡田薫さん(38)は、青年交流団体から派遣されて帰国した先輩たちを見て、「貧しいブラジルへ行って、何がそんなに楽しいのか」といぶかしく思う。

記憶。建設業の父・修さん(享年41)を事故で失うと、伯父に借金を負われ、家財が次々に差し押さえられる。一家は追われるように母・洋子さん(65)の親元へ。

「人の嫌なところばかり見て人間不信になり、内向きで、すすんでいた自分を見つめ直したかった。ブラジルではなく、貧民街の人々に興味があった」

「絵と数学 極貧を体験した強烈なはず、渡航の機内で、乗り合わせた人に「1から10まで数え方を教えてもらった」現場主義。他国のNGO(非政府組織)の下でホームステイ、食料配給、私設学校での

子どもの世話など、ボランティア活動に明け暮れる。美術大学に進もうと思ったくらい得意な絵の技術で、演劇のポスター作りも任せられた。1年後に帰国。心塾東京寮に戻って復学したと

◆絵と数学

高校のころ、姉、弟と3人きょうだいの長男として、母から「絵は金にならない」と言われ、美行力があつて現場に近い組織は何かと考える」

「素の自分」現場でたたき上げ

「何か(憑き物が)落ちた」気がした。「自然体というか、笑いたいときに笑い、怒りたいときに怒る、喜怒哀楽の感情を取り戻して、素」になった。肩に掛けていたものが、家族だと気づいたんです。母が期待しているはずだと、自分で勝手に背負い込んでいた。それがすっと取

「本当にだれかのため」に何かするというのは、どういふことか考えた。体験から、家とお金、何

「あんな生活したくない」——耳に残る母の言葉、赴任先の人々に寄せる思いに重ねる。

◆想定問答

「何か口に入れればよい」と、家に食器を置かない。ほぼ3年ごとの異動も気にしない。「世界のどこにいても、何のこだわりもありません」

「あんな生活したくない」——耳に残る母の言葉、赴任先の人々に寄せる思いに重ねる。

100分の1秒に挑むマーメイド

燃える青春

部活動拝見



佐賀県立致遠館高校 水泳部 3年 山崎 星華 さん



夏の日差しを浴びるプールで飛び込み、ターン、競泳と練習は休みなく続く

肺が強くなるようにと、3歳から水泳教室に通わせてくれた。水中が楽し

父英幸さん(享年23)と兄翔之さん(享年3)が亡くなり、後列席の母あゆみさん(39)と星華さんが助かった。以来、母娘2人で暮らす。

中学生のとき、ALT(外国語指導助手)の先生と英語を話すのが楽しくて、英語の勉強に夢中になった。2年前、育英会の海外語学研修に参加して、イギリスでホームステイも経験した。

◇母・父◇

「知っている単語を組み合わせる気持ちで伝えるようにする経験が、いま生きている。積極的になって、授業中、よく発言したり、わからないとすぐ先生に質問したり」
今年の春休みには、学校の米国訪問事業で日米高校生交流も果たした。英語の力を生かして、「語学を学びたい」と、隣県の大学に目標を絞っている。「がんばっている」とほめてくれる母を一人残す不安もある。

「小さいころせんそくが、興味だったので、母が、

「大会で自己ベストを更新すると、もっと上を目指したいと思う」

「小さいころせんそくが、興味だったので、母が、

お母さん

ただいま奮闘中



正木 友乃さん
食器卸会社社員
(青森市)

親子5人が、とにかくかまびすしく、忙しい。青森市の食器卸会社方ネモトに勤める正木友乃さん(40)は、8年前に事故で逝った夫・貴英さん(享年33)との間に4人の子に恵まれた。

「夫は、その子らの名前に、思いをこめた。高2の長男・冬威君(17)は、格闘技を習う傍ら、高校では柔道部。」「津軽の地吹雪のような厳しい環境にも負けな

「夫は高校のバレーボール部員で、スポーツが得意でした。仕事で私校に入學すると、パパさつも手料理を作っていて心選手でした」
貴英さんは、津軽半島最北端の旧三厩村(現外



育ち盛りの子が、部活に明け暮れる。毎週末の対外試合には、友乃さんがそれぞれヒストン輸送で送迎する。「私の休みも消えて、何かしている暇がない」

ママさんバレーに通う。「かわい名前にしたく前から夫が決めていた。長女の侑希さん(15、高1)は、アーチェリーが選んだ。

「母の近くにいるだけで、ずっと泳いでいた」と思う。

「父がいたら、将来のことを話したかった」

「静かな部屋で、一人でテレビを見ていたい」

静かにテレビ見ていたい にぎやか家族の部活支える輸送隊

1歳に満たないころ、一家4人が同乗する車が事故に遭った。前列席の

「父がいたら、将来のことを話したかった」

「父がいたら、将来のことを話したかった」

「父がいたら、将来のことを話したかった」

「父がいたら、将来のことを話したかった」

